

# でいこう

## 経済を変える!?最新シェアリングエコノミー動向

### バッテリースポット

## バッテリーのシェア カ所設置目指す

上に貼付されているQRコードを読み取ると利用できる。返却も空きスロットがあるバッテリースタンドのどこでも返却できる。はじめ1時間が150円、48時間までは300円、最大1週間まで1050円。

設置場所増の要因として、設置無料に加え、店舗運営に様々なメリットがあると同社CSMOの梶桃郎氏は話す。「誘客でき、筐体は広告を流せるデジタルサイネージを兼ねている。企業CSR活動としても役立っている」。災害による停電などの際は無償でバッテリーを貸し出す仕組みがあり、台風19号の際も夜間の充電ニーズにこたえていたという。現在も稼働が見込める店舗であれば筐体の設置を行っており、デジタルサイネージには設置事業者の広告を表示することも可能。

同社は現在、国内と中国、香港、台湾、タイにて展開。目下19年末までに設置場所を1.5万カ所に拡大する予定。



CSMO梶桃郎氏

### クラダシ

## 廃棄予定の食品を販売 平均は定価の65%、会員8万人

10月から「食品ロス削減推進法」が施行され、飲食業界がフードロス削減に躍起だ。その中で脚光を浴びるリセール企業がある。クラダシ（東京都品川区）だ。旧社名・グラウクスから6月に社名変更し、なお発展を続けている。

食品メーカーには「3カ月ルール」というものが存在する。3カ月売り場に出して売れなければ廃棄してしまうというものだ。クラダシはこうした売れ残り品など、売り物にならなくなった食品や美容品、日用雑貨等を各社から仕入れ、販売。1カ月で約600の商品が、平均して定価の65%程度で買えることが話題となり、会員数は8万人まで増加。半数以上がアクティブユーザーだという。

一般的に、売れ残りの安売りはメーカーにとって快い話ではない。しかし昨今では、クラダシが「救世主」になりつつある。製品の廃棄時に発生する処分費用がかえって売却益になり、更に販売額の一部がNPO



関藤竜也社長



クラダシECサイト。商品は毎週入れ替わる

法人や学生の活動費として寄付される仕組みを用意。クラダシが企業のCSR活動の手段となっている。クラダシは現在、2次流通ではなく、1.5次流通、として、社会貢献性を前面に押し出している。

本紙16年1月の取材では「時代が求めるサービスだ」と話していた関藤竜也社長。今は「時代が追いついた」と胸を張る。「SDGs、エシカル、という新たな概念の浸透や、法制の整備を追い風に、今後は実店舗との提携を進めたい考えだ。「販路の制限はしていないため、クラダシを仕入先として活用頂くのも可能。既にホームセンター大手の島忠さんと取引している」(関藤社長)